

コロナ禍の世界

横浜市駐在員リポート

22

「COVID19(新型コロナウイルス感染症)との闘いの間、彼らは日々フロントライン(前線)に立ち、自らの命を危険にさらして私たちを守り抜いた」。ニューヨーク州のクオモ知事は9月の労働祭に寄せて、医療、食料品販売、警察、消防などコロナ禍で献身的

ニューヨーク



警察改革を求めるプラカードが掲げられた集会=10月17日、マンハッタンのコロンバスサークル

向上の鍵は信頼の絆

に働いた人たちに賛辞を贈ることも、彼らへの信頼を改めて思い起こさせた。知事はまた、「ハロウィーンは止めない。留意点を用意しよう」と提案した。州内の陽性率は現在、全米最低水準にあるが、密を避けがたい感謝祭のパレード

が、今年新しいハロウィーンを創り出す。警官の資力があらわになったジョージ・フロイドさんの事件以来、警察への信頼を回復できるかが問われている。警察改革を訴える声は大きい。ロックダウン(都市封鎖)の時、命の危

険を冒して献身的に職務に当たった彼らは、間違いなく「コミュニティの信頼を得ていた。ニューヨーク州は、一番に警察改革の行動を起こした。犯罪が急増し、治安の悪化が懸念される中、警察はコミュニティ

とつながっているはずだ。」Ever Upward=「絶え間ない向上」。ニューヨーク州のモットーが、いま、力強く響いてくる。(横浜国際局グローバルネットワーク担当理事/米州事務所長・関山 誠)